～全国の学校の先生より～

新型コロナウイルス感染拡大の影響による
学校課題と取り組み事例のご紹介

2020年5月

株式会社ラーンズ

1.　はじめに

株式会社ラーンズ

新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴い、休校対応等でご尽力されていることと存じます。

全国の先生方と電話／オンラインでの情報交換をさせていただく中で、多くの課題や、解決に向けた取り組みのお声をいただきましたので、以下の観点でまとめました。
ご指導・ご対応の一助になりましたら幸いです。

株式会社ラーンズ
マーケティング・営業部
部長　陶山 佐和人

<INDEX>

■学校現場からお聞きする主な課題
└クラス担任／生活指導、教科担任、進路指導、学校運営／教務
■各校・先生方の課題別取り組み事例のご紹介
■【参考】生徒が感じている不安／課題など
■【参考】通達文書の読み方

2.　学校現場からお聞きする主な課題

株式会社ラーンズ

■クラス担任／生活指導

・休校中にいかに規則正しい生活／学習を行わせるか
・新学年のクラス作りをどうするか（新クラスの生徒をどう把握し指導するか）
・休校中の学内活動（部活、生徒会）の工夫
・不安をもつ生徒のケアをどう行うか

■進路指導

・模試等の相対評価が少ない中での進路指導
・進路ガイダンス／講演会の中止
・オープンキャンパス等への参加見送り
・総合型選抜（AO入試）等早期入試への対応
・３年進路未定者へのケア
・就職に向けた各種指導

■教科担任

・休校中にいかに学習を積ませるか
　⇒WEB配信でも授業を進めるべきか
　⇒学習教材の与え方、課題のチェック方法
　⇒直接授業していない生徒とのコミュニケーション
・休校明けからの授業時間の確保、授業進度（特に３年生の理科・地歴公民）
・模試／校内テストがない状況での生徒把握
・大学入試に向けた入試学力をいかに養成するか

■学校運営／教務

・休校明けの授業時間確保に向けたカリキュラム再編／持続可能な仕組みづくり
・休校明けを見据えた長期休暇／学校行事などの調整、定期試験（成績評価）の検討
・学校としての各種支援方針の決定
・保護者への協力や不安解消
・ICT環境など、休校中の生徒とのコミュニケーションツールの確保
・教員のメンタルケア／教員間のコミュニケーション

3.　クラス担任／生活指導

株式会社ラーンズ

休校中にいかに規則正しい生活／学習を行わせるか

■起床時間、就寝時間、学習開始時間の３点固定の徹底

・スケジュール手帳を用いた記録と振り返りの徹底

【中四国地区　K高校】 オンラインで一斉に手帳記入時間を設定

休校中はオンラインを用いて朝会と夕会を実施しているが、この時間で連絡事項に加えて、一斉に手帳記入と一日の振り返りの時間を５分程度確保している。これは通常時も実施していた内容。
生徒には休校期間であっても、計画を立てた規則正しい生活をしてもらうために、大切にしている

・オンラインを用いた朝学習による学習開始時間の徹底

【首都圏地区　C高校】 オンラインを用いた朝学習の実施

生徒に規則正しい生活／学習させるためには、学習開始時間が大切だと考え、教科持ち回りで朝学習の時間（25分）を設定した。内容は、基本事項のプリント演習や、その日の家庭学習のPOINT解説など、教科によってバリエーションをもたせている。

・課題の朝提出と未提出者への電話連絡
・教科別学習リストなどをまとめた週単位での「学習指示書」の配信
・保護者とも連携した３点固定の徹底（クラス通信等での方針徹底のお願い）

4.　クラス担任／生活指導

株式会社ラーンズ

新学年のクラス作りをどうするか（新クラスの生徒をどう把握し指導するか）

■生徒とのコミュニティ作りによるクラス作りと伝達

・クラス替えがありすぐに休校の中で、いかにして生徒とのコミュニティを作るか

・朝SHRによる出欠確認と連絡事項の徹底に加えた新学年クラス作りの醸成

【九州地区　S高校】 少人数による朝会で密なコミュニケーション

クラスでの朝SHRは週２回とし、輪番制による少人数での朝会を実施している。それにより、一人一人に声かけができ、生徒の声もきける。少人数の中では生徒同士でも会話をしてもらうようにしている。

【東海地区　M高校】 日直制による朝SHR

新入生に対してすぐに休校になったこともあり、クラス作りが遅れている。そこで朝SHR（オンライン）では、少しでも生徒に話をしてもらいたいと考え、日直を二人おいて、朝SHRの進行と、４月は簡単な自己紹介をしてもらった。教員からの一方的なコミュニケーションではない形が取れている。

・月１回のLHRの配信およびクラス通信の配信、クラス通信内での生徒個人の紹介等

・Zoomの活用。安否確認や遠隔授業のツールとしての他に、子どもたちが他者を意識するツールとしての面を意識した使いかたもできる。

・クラスの「LINEグループ」を作成し、コミュニティに利用する担任もあり

5.　クラス担任／生活指導

株式会社ラーンズ

休止中の学内活動の代替え／不安をもつ生徒のケアをどう行うか

■休止中の学内活動（部活動や生徒会）を工夫して行う

・休止中の部活動別の各種取組み（オンライン自習や部活動内容の情報交換など）もあり

【九州地区　K高校】 部活顧問主導による各種指導

生徒は、部活動ができないことでストレスを抱えており、１年生は部活動で上級学年との交流ができていない。そこで、部活顧問が主導して、オンラインでのトレーニングや部員同士の自己紹介などの交流、合同自学などの取組みをしている。レッスンルームとは別の切り口で生徒は新鮮味があるようだし、頭を使った部活動の推進にも役立っている。

・生徒のアイディアで、オンラインを活用した部活動（個が横につながるチームワークづくり）もあり

・進路未定者や不安を抱えた生徒を中心に、クラス担任によるオンラインまたは電話での希望者面談（学校によっては保護者対象に実施する場合もあり）

【東海地区　T高校】 クラス担任による希望者面談

３年生では進路未定者、１年生では高校内容の学習への不安など多くの不安を感じている。また教員も生徒の様子が分からず困っている。そこで、希望者に対して、電話またはオンラインを使った面談をしている。多くの家庭は保護者も一緒に参加することが多く、良いコミュニケーション機会となっている。

6.　クラス担任／教科担任

株式会社ラーンズ

休校中にいかに学習を積ませるか

■学習機会と学習教材の提供

・登校日の設定（学年／クラス輪番）と短サイクルでの課題（学習プリント）の配信

【首都圏地区　S高校】 学年別の分散登校日を設定

学年別に６月までの登校日を設定（１学年あたり週２回）。密集を防ぐために学年単位で分散させた。教室分散も行い１教室を20名程度とし、通常授業と学校内のZOOM授業を組み合わせた。授業は特別時間割編成とし、10:00～15:00を基本とした。
登校しない日は基礎学力定着日と位置づけ、WEB朝礼のみの実施とした。

・オンラインを用いた自習教室、質問電話対応時間の設定（生徒同士の顔を見る）
・休校明けの「課題テストの告知」とセットでの課題提供が効果的
・自宅での模試受験（過去問）の実施と自己採点＋解説
・休校中は「共通テスト対策」の取り組み具合がよい。生徒のモチベーションを高める教材選びが大切

【九州地区　T高校】 ３年生に徹底した共通テスト演習を展開

３年生は受験に向けた学習が最もモチベーション高く取り組むので、国数英を中心に共通テスト対策の演習を中心に課題を与えた。休み前に共通テストに関する学習の心構えと出題に関する資料を提供し、共通テスト対策問題集を配布。
休校明けの模試（６月）の大切さを説明し、模試に向けた学習と位置付けた。あわせて臨時休校明けの校内テスト（課題テスト）の範囲にも設定した。

7.　クラス担任／教科担任

株式会社ラーンズ

休校中にいかに学習を積ませるか

■オンラインを用いた授業

・１年生中心に動画授業の配信（ただし、授業時間やコマ数は限定的）
⇒感触が分かりにくいため、定着を確認するための確認テスト／WEBアンケートが必要
⇒復習しやすい録画動画配信や授業動画にデータでコメントを差し込み、より理解を深める仕掛け

【首都圏地区　K高校】 在宅学習時間割を構成　オンライン授業も組み入れ展開

生徒にバランスよく、計画的に学習させるために、在宅学習時間割表を作成。週４日のリフレッシュタイム（体育）や芸術なども含んである。この時間割の中にオンライン授業も組み入れている。オンライン授業は生徒の集中力の課題もあるので、40分授業で展開している。

■自発的な学習をいかに促すか

・推薦教材の紹介、学習記録や成果物（学びの軌跡）を残していく／休校明けの提出、評価
・夏休み課題の早期配布による自発的な学習教材の提供
・国語、英語はいかに予習をすることが出来るか⇒一部反転学習へ

■進路研究（進路学習）の推進

・教科学習以外の学習機会の提供（資格学習など）
・進路指導部から「進路だより」や「推奨サイト」「録画配信による進路ガイダンス」の発信
・大学調べ、志望理由書作成、進路学習課題を課す高校も

■指導環境づくりに注力するための、良質な既存コンテンツの活用

8.　教科担任／教務

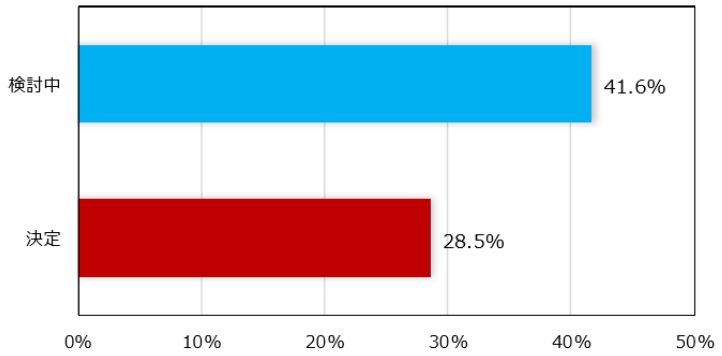
株式会社ラーンズ

休校明けから、いかに「授業時間（履修進度）の確保」と「感染対策」を両立させるか

■学校行事および長期休暇の削減

・文化祭、体育祭の廃止・延期（３密の防止を含む）、修学旅行なども要検討
　⇒生徒の士気、学校への帰属意識、自己肯定感への影響が懸念される
・夏休み期間の短縮と変則授業のシミュレーション
・一方で感染対策として、時差通学、短縮授業などの見直しを行う学校が多数
・休校明けの一定期間は、午前中授業などで慣らしていく学校もあり

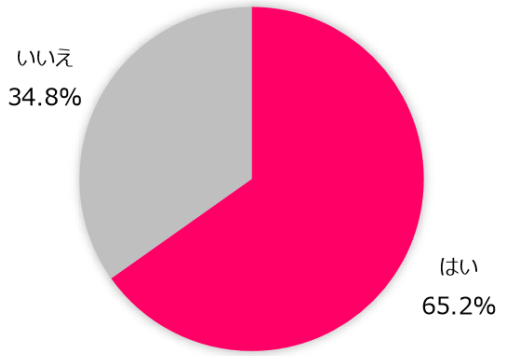
【参考資料①】 学校行事の精選



約７割の学校で学校行事の見直しを検討または決定している。

※ベネッセハイスクールオンライン（調査期間4／20～5／1）より

【参考資料②】 夏休み期間の短縮の検討／決定



約65%の学校で夏休みの短縮を検討／決定している。多くの学校は２週間程度の短縮予定。

※ベネッセハイスクールオンライン（調査期間4／20～5／1）より

株式会社ラーンズ

休校明けから、いかに「授業時間（履修進度）の確保」と「感染対策」を両立させるか

■カリキュラム（シラバス）再編による授業

・シラバス再編による授業遅れのリカバリー

【九州地区　S高校】「授業スピード1.3倍キャンペーン」による各教科での授業研究の実施

休校措置などで、授業進度の遅れが最も大きな課題だと認識している。教員には「授業スピード（履修進度）を1.3倍にする」という方針を伝え、実現に向けた施策を各教科・学年で検討するように依頼している。教科ごとにシラバスの再構築や指導項目の精選、予習・復習の改善などを具体化を考えているが、これが良いきっかけになり、学校改革に繋がればと考えている。

・授業進度のリカバリーが、単に「対話型」が「講義型」に変換にならないように注意

・「何を教えたか」→「何ができるようになったか」への転換、学習指導要領の具現化

・45分授業への転換によるコマ数の確保、３年生向け放課後補習の増枠

【近畿地区　K高校】「45分授業への転換と補習の増枠による授業枠の確保」

授業進度の遅れを取り戻すために、コマ数を確保する方策を優先的に検討した。45分授業にしてコマ数を増枠し、３年生に対しては、６月の放課後補習枠を１枠から２枠に増やすことにした。
今後、夏期休暇の短縮や行事の精選などを検討していく予定である。
保護者にもアンケートをとり、授業の遅れが最も大きな不安材料だったので、是非こたえていきたい。

10.　教科担任／教務

株式会社ラーンズ

休校明けから、いかに「授業時間（履修進度）の確保」と「感染対策」を両立させるか

■成績評価
・中間考査の中止などにより、「どう評価をつけるか」の基準検討と生徒への明示
・休校措置期間の在宅学習を評価に入れるように指示がおりている自治体も一定数あり

■学校としての各種支援方針の決定（プライオリティをつける）
①ホームルーム（学びの基盤としての「絆」）②総合の学び（学びの基盤としての「学ぶ意味の確認」）
③教科の学び　④生徒会　⑤部活動、同時に教育相談や図書館活動など機能維持にも目配り。

■学校の運営方針（支援方針）を明確に書面および口頭にて説明する
・学校での安心／安全への対応方針を明示
・授業リカバリー、成績評価などへの対応
・学校行事、部活動の変更点
・保護者への協力や不安解消について

【近畿地区　N高校】「休校明けからの学校の運営方針」を安全面、学力面の両方から説明

臨時休校に入る時点でもそうだったが、保護者・生徒にはしっかりと説明するかどうかで、取組みや不安感が大きく違ってくると思うし、それが教員間のコンセンサスにも繋がると考えている。
臨時休校が解除されることを早期にイメージして、保護者に説明する形で案件を整理している。項目としては、安心／安全面での配慮、授業時間の確保、成績評価、夏季休暇を含む行事、保護者の協力、生徒への心構えなどである。

株式会社ラーンズ

休校明けから、いかに学力を定着させるか

■休校明け早々にいかに生徒を多面的に把握し指導できるか

・休校明けの指導は「授業のリカバリー」が最優先。そのために休校中の学習履歴と定着確認が肝
・教科力の把握の意味では「生徒の生の解答」の確認が重要
・休校明け早々に、学力テスト・各種調査⇒面談を計画

【九州地区　I高校】 休校明けに生徒を多面的把握し、面談等でケアする計画

新しいクラスの状況および各生徒の状況が把握できていないため、休校明けの早期のタイミングでアセスメントの実施を計画。学力に加え、臨時休校中の学習・生活状況、進路意識、メンタルの状態などを確認し、授業やクラス運営、個別指導に活かしていく予定。
１年生は高校内容の学習にかなり不安があり、校内での相対的な位置も知りたがっている。今後文理分け指導も始まるので、生徒にとってもプラスになるものと考えている。

■例年と変わらない演習量をいかに確保するか

・ゴールが変わらないとしたら、遅れても同じ問題量をこなし、定着を促したい
・演習スケジュールの再作成と受験生への提示、低学年は学年末までに追いつくスケジュール
・例年と同じ教材とプリントの提示による自学自習の推進

【九州地区　S高校】 当初予定通りの教材を与え、授業と課題の切り分けを実施

大学入試というゴールが変わらないとしたら、同じ問題量をこなし定着を促したいと考え、当初の予定通りの教材を配布予定。ただし、授業で扱うような問題は厳選し、問題を全てこなすスケジュールを計画した上で生徒に提示予定。

株式会社ラーンズ

休校明けから、いかに学力を定着させるか

■生徒が学びに向かう各種仕掛け

・「やり切った１冊（教材・ノート）」を積みあげる仕組みつくり
・放課後の自習教室の実施（密集を避けるための体育館での実施）による「受験は団体戦」つくり
・休校明け早々の校内実力テスト実施による意識向上
・休校明けの講演会（校内放送）とHRによる生徒個々による学習計画作成

【九州地区　T高校】 臨時休校明けから生徒が学びに向かう各種施策

臨時休校明けを３年生にとっての「受験勉強リスタート期」と位置づけ、各種仕掛けを再検討。６月上旬に進路ガイダンスおよび進路講演会（ただし校内放送にて）を実施し、学習計画書の配付、放課後の自習教室の設定など予定。

■３年生の理社（共通テスト対策）をいかに間に合わせるかが大きな課題

・特に３年生理科／地歴公民の授業進度が心配。国数英は土曜日補習とし、放課後補習は理科／地歴公民に配分する学校も

【中四国地区　S高校】 理科／地歴公民の完成に向けたスケジュール策定

３年生については、理科／地歴公民の授業進度と演習量確保が最重要課題と捉え、各教科で検討の上、学年全体で授業・補習・課題のバランスについて検討。課題量は国数英を中心としつつ、補習等の配分で理科／地歴公民に例年よりも多く配分する案を策定した。

13. 進路指導

株式会社ラーンズ

休校中／休校明けの進路指導ストーリーの再構築

■進路だよりの配信

・進路ガイダンスの後ろ倒しに対応するために、進路意識醸成の進路だよりの配信
（登校日またはWEBでの配信）

■休校中にできる進路学習の薦め

・課題としての「志望理由書」および「活動記録まとめ」の作成
・WEBオープンキャンパスへの参加促進、新入試情報などお薦めサイトの紹介

【九州地区　M高校】 臨時休校中の大学調べ課題を元にした進路学習の実施

各学年ごとに進路学習の課題を与え、進路意識の醸成を狙った。１年生には職業調べ、２年生には学部学科調べ、３年生には大学および入試科目等の調査を課題として与え、あわせて教員も情報収集につとめている。休校明けは、それらを材料とした進路学習プログラムを計画中

・オンライン上での進路志望調査の実施
・録画配信による進路ガイダンス／講演会の実施

14. 進路指導

株式会社ラーンズ

休校中／休校明けの進路指導ストーリーの再構築

■入試／就職試験への対応

・総合型選抜（AO入試）など早期入試への対応（小論文の個別指導など）

【九州地区　M高校】 早期入試志望者および小論文学習者への添削チーム編成

３年生の早期入試志望者および小論文指導希望者に対して、数人のチームを作り、オンラインにて添削指導やグループワークを実施。臨時休校中はオンラインを使って指導したが、休校明けも継続的に指導していく予定

・３年進路未定者へのケア（オンラインでの個別面談など）
・就職に向けた各種指導

■進路指導ストーリーの再構築

・模試等の志望大決定までの材料収集（自宅での模試受験や校内実テを実施する学校もあり）
・新入試に向けた大学別状況の把握と共有
・進路ガイダンス／講演会などのスケジュール再構築

15. 学校運営／教科担任／クラス担任

株式会社ラーンズ

ICTを用いて、効果的な指導を行うPOINT

■オンラインを用いた効果的指導を考える
- ライブ配信、録画配信によるオンライン授業の展開
- デジタルツールによる宿題（課題）の配信と、課題提出、小テスト等の実施
- オンラインによるSHRの実施および出欠確認、進路だより等の連絡事項の配信
- オンライン会議システムを活用した職員会議等の教員間コミュニケーション
- オンラインによる生徒個別面談および保護者面談を実施する学校も

■オンライン学習支援に過度な期待をせず、可能な範囲で有効活用する
- 授業）生徒の集中力を考えた授業時間とコマ数（例：１日の授業は30分×３コマ）
- 授業）普段の倍以上のアイスブレイクを導入
- HR）生活のリズムを作るために、朝のHRのみ実施し出欠確認
- 宿題）オンラインでの宿題は、通常よりも少なめで分量調整

■中長期を見据えた持続可能なプランの実行
- 短期決戦の緊急対応の視点に加え、中長期を見据えた環境変化として捉え考える
- 今回を機に、今後も活用できるICT環境の整備と運用

■ICT活用において、なるべく個人差を生じさせない仕組み
- 生徒、保護者への活用マニュアル整備、教員間での勉強会実施

参考）　気づきと学びのアーカイブ　　※PDFファイルあり

16.　【参考】生徒が感じている不安／課題など

株式会社ラーンズ

学習	
自宅での学習課題	課題の**量が多すぎ**て終わらない／習っていない範囲の**学習が理解できない**（特に１年生）
オンライン授業 オンライン学習	オンライン**授業が長すぎて集中できない、異常に疲れる**／授業は１時間くらいなのに、問題解いたり、ノートとったりで２時間半くらいかかる／スマホを使った学習で不具合がでる
学習方法 学習環境	ネット授業だけできちんと学習できているのか不安／**課題以外に何を取り組めばよいか**分からない／大学入試に向けた学習の仕方が分からない／**塾に行けない**
学力レベル	**周りがどれくらいのレベルなのか**わからない／模試がなくなったので、**合格可能性**や弱点が分からず不安
大学入試	**大学受験がどうなる**のか不安／大学入試に向けて、自分がやっていることが正しいのか不安／英語検定を受験しなかったが大丈夫か

進路・生活・各種活動	
進路	**進路が決まっていない**。オープンキャンパスなどには行けるのか不安／社会情勢も含めて**就職できるのか**不安
部活動	**部活動が出来ない**こと、体を動かすことができないこと／部活の試合がなくなったこと（活動記録が書けなくなったこと）
家庭生活	**外に出たり遊んだり出来ないストレス**／友だちと会えないこと／家族とのけんか
学校生活	学校が開始したときに**授業についていけるか**不安／**学校（クラス）に馴染めるか**が不安（特に１年生）

自粛中の生徒たち（高１～高３）の声を集めた資料から

どの生徒もストレスを感じながら耐えている様子ですが、
自我が確立して学校からもある程度距離がもてている高３生や、友人や部活動などでコミュニティが築けている高２生に比べて、
高１生（新入生）の不安やストレスが大きいことが伺えました。高校でのオリテンや授業を受けていないまま多くの課題をこなしつつも、相対的に自分が捉えられておらず「これでいいのか？」という不安や、入学後間もないので学校の言いつけに従って自粛生活している様子が伺えました。
また、学校の先生方が課題に感じている、文理・コース選択や進路選択、受験学力の把握は、生徒たちはほとんど知らない状況です。

17. 【参考】通達文書の読み方（遠藤洋路 熊本市教育長ブログより転載）

https://endohiromichi.hatenablog.com/entry/2020/04/26/233208

株式会社ラーンズ

新型コロナウイルス対策に関連して、連日のように文科省からの通知が発出されています。
教育委員会や学校の皆様も、日々どんな通知が出てくるのか、気になっていると思います。
しかし、文科省の通知は、その読み方を知らないと、一言一句に過度に振り回されてしまいます。
すると、文科省が意図している以上のことを読み取ってしまい、「そんなの無理だ」とか「そんなのは国の仕事ではない」などと、無用の反感を持ってしまうことにもなりかねません。
実は、**文科省の通知は、説明、修飾、例示が多く、「絶対にやってください」という部分は、全体の分量からするとさほど多くありません。**通知を読む時のルールを知った上で読めば、だいぶ精神的に楽になるのではないかと思います。

（文科省通知を読む時のルール）

○ 「など」「例えば」「たり」→ 例示なので、別のことでもいい。
○ 「等」→ それだけでなく、別のものも含む。
○ 「場合には」「必要に応じて」→その場合にやればいい。
○ 「踏まえ」「留意し」→お説教や参考情報なので、わかっていればいい。
○ 「可能な限り」→できるだけやればいい。

このルールに沿って、4月21日の通知を例に、「絶対にやってください」という部分だけを示し、あとは黒塗りにしてみました（都道府県教育委員会は、指定都市教育委員会は、など、それぞれに宛てて書かれている部分は、都道府県を選んでいます）。
かなり黒塗りなので文科省の人には怒られそうですが（笑）、実際に、いつも私が通知を読んでいるイメージはこれに近いです。
黒塗りの部分は、参考やら説教やら例示、または特定の場合を想定した記述です。それらも、もちろん読みますし、できているか確認はしますが、常にやるべき事項だとは捉えません。
こうしてみると、どんな場合にも絶対やれ、という部分は意外と少なく、そして当たり前のことが書いてあるのではないでしょうか。
７ページ目以下はそもそも参考なので省略します。
原文はこちらにありますので、見比べてみてください。
https://www.mext.go.jp/content/20200421-mxt_kouhou01-000004520_6.pdf

18. 【参考】通達文書の読み方（遠藤洋路 熊本市教育長ブログより転載）

株式会社ラーンズ

[redacted]

[redacted]

新型コロナウイルス感染症対策のために小学校、中学校、
高等学校等において臨時休業を行う場合の学習の保障等に
ついて（通知）

[redacted]臨時休業中であっても最低限取り組むべき事項等について以下のとおりまとめましたので、各学校及びその設置者におかれては取組を徹底していただくようお願いいたします。

併せて、各都道府県教育委員会におかれては、別添のチェックリストを用いて、域内の市町村における取組状況について報告いただくようお願いいたします。

各都道府県教育委員会におかれては、所管の学校及び域内の市区町村教育委員会に対し、[redacted]

[redacted]周知いただくようお願いします。

記

1．臨時休業中の学びの保障等について

[redacted]設置者が義務教育諸学校の臨時休業を行う場合においても、公教育の果たすべき役割に変わりはなく[redacted]必要な対応を行うことが求められる。

[redacted]高等学校等においても、[redacted]義務教育諸学校と同様の対応が求められる。

2．臨時休業を行う場合に義務教育の重要性の観点から取り組むべき事項

（1）[redacted]すべての地域において最低限取り組むべき事項について

①学習指導に関すること

[redacted]各設置者及び学校等が主体となって児童生徒の学習を支援するための可能な限りの措置を講じることが不可欠である。

各設置者においては、[redacted]下

19. 【参考】通達文書の読み方（遠藤洋路 熊本市教育長ブログより転載）

株式会社ラーンズ

記のような学校を支援するための取組を速やかに講じるとともに、各学校の取組状況を把握し、きめ細かく指導助言を行うこと。都道府県教育委員会においても、域内の市区町村教育委員会の状況を把握し、きめ細かく指導助言を行うこと。

ア．学校が課す家庭学習の充実

[redacted]各教科等において、主たる教材である教科書及びそれと併用できる教材等に基づく家庭学習を課すこと。[redacted]

イ．児童生徒の学習状況の随時把握

[redacted]教師が定期的に個々の児童生徒との間で[redacted]学習状況の把握を行い、児童生徒の学習を支援すること。

ウ．ＩＣＴの最大限の活用

[redacted]

[redacted]ＩＣＴ環境の積極的な活用に向け、あらゆる工夫をすること。

[redacted]

②児童生徒の心身の状況の把握と心のケア等に関すること

学級担任等を中心として、[redacted]児童生徒及びその保護者との連絡を密にし、[redacted]定期的に児童生徒の心身の健康状態を把握すること（概ね２週間に１回程度）。その際、[redacted]児童生徒の状況を的確に把握すること。また、[redacted]児童生徒の心のケア等に配慮すること。

特に、要保護児童対策地域協議会に登録されている支援対象の児童生徒に関しては、[redacted]定期的に児童生徒の状況を把握すること（概ね１週間に１回以上）。加えて、[redacted]児童相談所等の関係機関と緊密に連携し、必要な支援を行うこと。

[redacted]

20. 【参考】通達文書の読み方（遠藤洋路 熊本市教育長ブログより転載）

株式会社ラーンズ

[redacted]

3．臨時休業を行う場合の教職員の勤務について

（１）在宅勤務や時差出勤等について

[redacted]教職員においては、自身の健康にも配慮する工夫を行いつつも、[redacted]必要な業務を確実に継続することが求められる。

[redacted]「２（１）」に述べた[redacted]最低限取り組むべき事項については、出勤しているか在宅勤務であるかを問わず、積極的かつ速やかに取り組むこと。

[redacted]

（２）在宅勤務におけるＩＣＴを活用したテレワークの実施について

[redacted]

[redacted]各教職員が情報管理に十分配慮しつつ、ＩＣＴ環境を最大限活用すること。

[redacted]

4．学習取組状況のフォローアップについて

各都道府県においては、域内の区市町村における取組状況について、別添２のチェックリストを用いて確認いただき、４月２８日（火）までに、別添１により各都道府県における取組状況や課題等について文部科学省にお知らせいただくようお願いいたします。

[redacted]